さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

「農福連携」取り組み広がる

山梨県内で、農業と福祉が協力し合って障害者が農業に関わる「農福連携」の取り組みが広がっています。県を通じて農業と福祉をつないだ事例は、2018年度は延べ27件でしたが、ここ３年間は延べ50～70件と２倍以上に増えています。働く人が年をとって人手が不足している農業者の側と、障害者の働く場を確保して仕事に対して払われるお金を増やしたい福祉事業所の側の双方にとってためになるということです。福祉事業所の利用者は野菜や果物などの袋詰めやブドウの傘の洗浄などの仕事をするほか、オリジナルの商品の開発を始める例もあります。山梨市の観光イチゴ園「いちかわベリーハウス」は、市内の就労継続支援B型事業所「レイズ」に軽作業の仕事をしてもらっています。同園の市川真樹さんは「人手が足りない中で本当に助かっている。この取り組みを多くの農家に知ってもらいたい」と話しています。

軽作業をする利用者と交流する市川真樹さん。「人手が足りない中で本当に助かる」と農福連携のメリットを語っています　＝山梨市市川

（2025 年 2 月 6 日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと 10 面）

問1 「農福連携」とは、どのような取り組みですか。

問2 「農福連携」することで、農業者と福祉事業所の利点を答えてください。

・農業者：

・福祉事業所：

問3 福祉事業所の利用者は、どのような仕事をしますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2025 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.